



道北地域8社、オホーツク地域4社の合計12社で 中継輸送の実証実験を行います！

北海道開発局では、中継輸送実証実験にご協力いただける物流事業者を募った結果、道北地域で8社、オホーツク地域で4社の合計12社で新たに実証実験を行うこととなりました。

※各地で実証実験の取材を希望される方は、10月16日(月)12時までに別紙3, 4でお申し込みください。

【道北地域】

- 実施日程 令和5年10月13日(金)～令和5年11月10日(金)
令和6年1月22日(月)～令和6年2月9日(金)
- 実施場所 名寄北管理ステーション(名寄市^{とнами}砺波)、ヤマト運輸(株)名寄営業所(名寄市^{とくだ}徳田)
- 実施主体 旭川開発建設部
- 実施内容 別紙1のとおり

【オホーツク地域】

- 実施日程 令和5年10月16日(月)～令和5年10月20日(金)道の駅「しらたき」
令和5年10月23日(月)～令和5年10月27日(金)白滝管理ステーション
- 実施場所 道の駅「しらたき」(遠軽町^{おくしらたき}奥白滝)、白滝管理ステーション(遠軽町^{しらたき}白滝)
- 実施主体 網走開発建設部
- 実施内容 別紙2のとおり

※令和5年9月11日発表資料

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa0000015qpv.pdf>

【全般に関する問合せ】国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課 電話(代表)011-709-2311
伊藤 典弘(内線5845)、角張 弘幸(内線5958)

【実証実験に関する問合せ】

(道北地域)国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 道路計画課 電話0166-32-4285
坂本 毅(内線3351)、秦 地大(内線3558)

(オホーツク地域)国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 道路計画課 電話0152-44-6510
横山 朋紀(内線351)、本間 光世(内線477)

【別紙7に関する問合せ】国土交通省 北海道開発局 開発監理部 開発調整課
電話(代表)011-709-2311
三岡 照之(内線5472)、畠山 浩和(内線5477)

北海道開発局ホームページアドレス <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



実験概要

○実施日程

令和5年10月13日(金)～11月10日(金) 及び 令和6年1月22日(月)～2月9日(金)

○実施場所・実施内容

実施場所: 名寄北管理ステーション(名寄市砺波)、ヤマト運輸(株)名寄営業所(名寄市徳田) ※1

実施内容: トラックによる中継輸送(①ヘッド交換・②ドライバー交換・③荷物積み替え)

※1 生産空間の維持・発展に資する連携協力協定によりヤマト運輸(株)と実施(冷凍品や大口の荷物の中継輸送を想定)

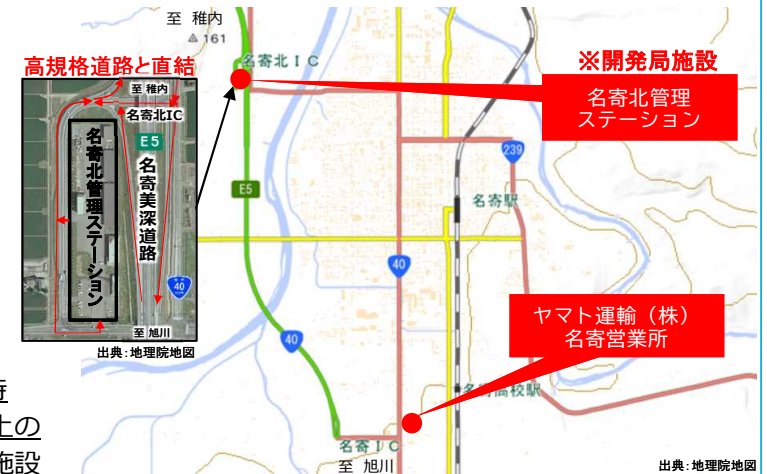
○中継輸送の参加事業者

8社(札幌自動車運輸(株)、(株)道央通商旭川、協進運輸(株)、ヤマト運輸(株)、(株)ほくうん、(株)陸運、(有)眞嶋食品、五十嵐運輸(株)) ※申込順

○効果検証

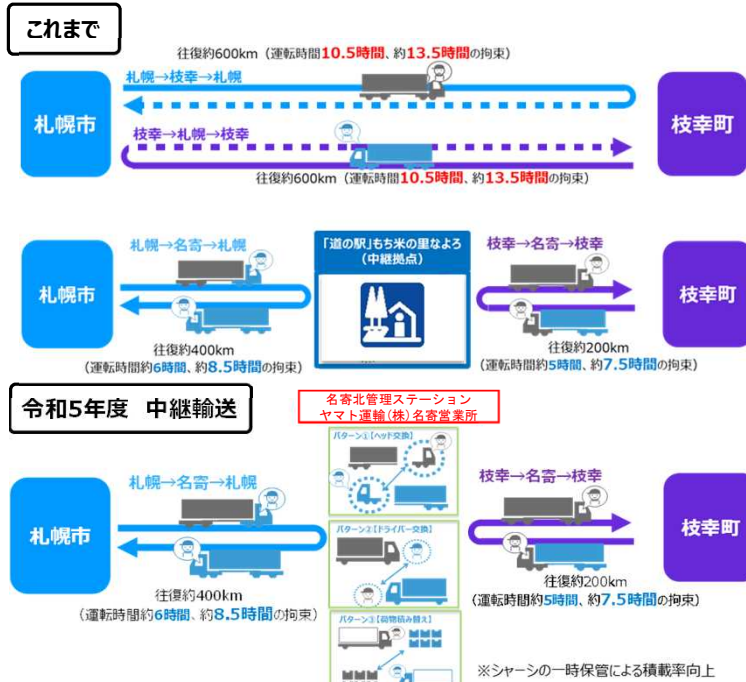
名寄北管理ステーション等の活用によるドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化、トレーラの一時保管による集荷(積載率※2向上)及び課題検証、夜間実施における作業上の課題把握、降雪期における作業上の課題、物流事業者同士のマッチングの仕組み※3や駐車場の予約受付システムの構築、高規格道路直結の道路施設での有効性等把握

※2 最大積載重量に対して実際に積載した貨物の重量の比率 ※3 物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場(別紙7)



中継輸送実証実験 実施内容

○中継輸送の概要



○中継輸送スペースの検証



○予約システムのイメージ



※スマートフォンによる入力・確認

荷役タイプ	コンテナ
出発地	枝幸
目的地	札幌
ドライバーからの連絡	30分程度遅れます
中継完了	未完了

※令和4年度の実証実験のニーズを踏まえ、遅延通知機能や中継完了ボタンを追加。

実験概要

○実施日程

道の駅「しらたき」(旭川・紋別自動車道 奥白滝IC直近) : 令和5年10月16日(月)～10月20日(金)

白滝管理ステーション(旭川・紋別自動車道 白滝IC直近) : 令和5年10月23日(月)～10月27日(金)

○実施場所・実施内容

実施場所: 道の駅「しらたき」(遠軽町奥白滝) : 時間的優位性の検証

白滝管理ステーション(遠軽町白滝) : 作業効率の優位性の検証

実施内容: ヘッド交換による中継輸送を実施

○中継輸送の参加事業

4社(日本貨物鉄道(株)、(株)ジェイアール貨物・北海道物流、日本通運(株)、北見通運(株)) ※申込順

○効果検証

道の駅「しらたき」及び白滝管理ステーションの活用によるドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化、

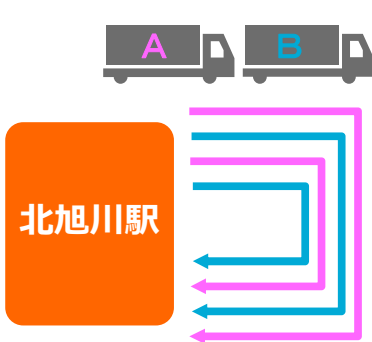
高規格道路直結の道路施設の有効性、オホーツク地域における中継拠点適地の確認

(旭川～北見間の中継拠点としての妥当性検証及び各施設の優位性及び作業効率の確認)

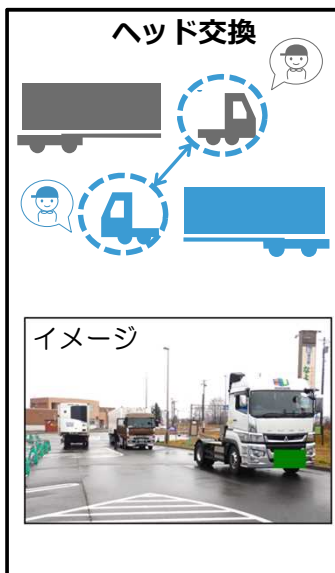


中継輸送実証実験 実施内容

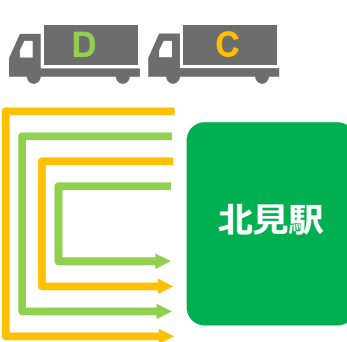
A・B.旭川⇒白滝⇒旭川



北旭川駅
片道約80km
(1日合計4往復の実験)
約8時間/台の拘束時間を想定
約5時間/台の運転時間を想定



C・D.北見⇒白滝⇒北見



北見駅
片道約80km
(1日合計4往復の実験)
約9時間/台の拘束時間を想定
約7時間/台の運転時間を想定

※中継場所 白滝管理ステーションの場合



◀道の駅「しらたき」

※実証実験実施に伴い、道の駅駐車場の一部区域への進入・駐車
の制限があります。



◀白滝管理ステーション

※実証実験実施中も一般車駐車場・24時間
トイレは利用可能です。

管理者記入用（申込年月日 令和5年 月 日 No. ）

【 取 材 申 込 書 】

名寄北管理ステーション（名寄市砺波）等での中継輸送実証実験

(フリガナ) 氏名：
(フリガナ) 所属：
ご連絡先 電話番号：() E-mail アドレス： ※日中連絡がつく番号を記載願います。
備 考

<参加申込書の提出及び問合せ先>

■連絡先 E-mail：hkd-as-info@gxb.mlit.go.jp

管理者記入用（申込年月日 令和5年 月 日 No. ）

【 取 材 申 込 書 】

道の駅「しらたき」（遠軽町奥白滝）等での中継輸送実証実験

(フリガナ) 氏名：
(フリガナ) 所属：
ご連絡先 電話番号：() E-mail アドレス： ※日中連絡がつく番号を記載願います。
備 考

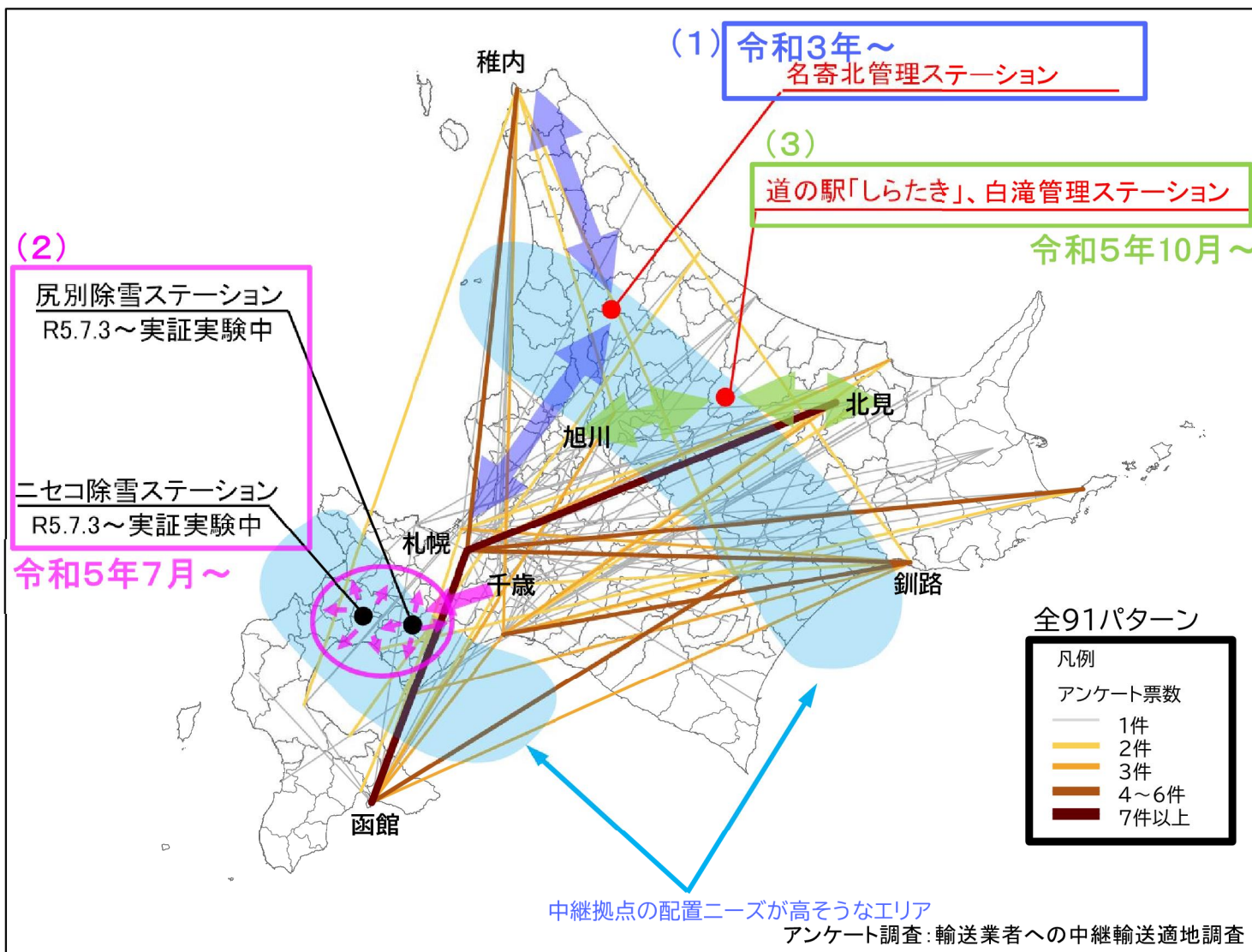
<参加申込書の提出及び問合せ先>

■連絡先 E-mail：hkd-ab-info@ki.mlit.go.jp

〔参考〕 北海道開発局における中継輸送実証実験の取組み

○令和4年度に道内の物流事業者※1を対象に実施したアンケート（回答数N=212件）より、将来的に中継輸送を実施したいODパターン（市町村間における輸送OD）は、以下に示す91パターンを確認。
 長距離においては、札幌―北見、札幌―函館、札幌―稚内等のトリップが多く、中距離においては、旭川―北見等ニーズもあり、北海道内の物流事業者の主要な中継輸送ODパターンと考えられる。

- (1) 令和3年度～ 札幌～道北間（約400 km）での中継輸送実証実験 【今回①】
- (2) 令和5年7月～ 千歳～後志地域での中継輸送（地域内配送）実証実験
- (3) 令和5年10月～ 旭川～北見間（約200 km）での中継輸送実証実験 【今回②】



令和4年度の道北地域での実証実験の状況



注)
 左図の動線上の中間に立地するエリアが中継拠点の配置ニーズが高そうなエリアと考えられ、このエリアに立地する道路施設（道の駅、駐車帯、SAPA、除雪ステーション等）を対象に中継輸送拠点候補箇所を検討。
 ※1：貨物自動車運送業法による許可を所有した道内に営業所のあるトラック事業者(4,792社)

【課題・目的】 地方部は1つの中継拠点で広域な地域をカバーしており、輸送が非効率となっている。地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を効率化することを目的とする。

（中継拠点の機能）

- ①都市間の輸送を中継する機能
- ②地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を中継する機能←今回の実証実験での着眼点

【実証実験概要】 道路施設（除雪ステーション）を中継拠点として活用することにより、都市間（千歳⇄倶知安）を輸送する大型トレーラーから後志地域内（中継拠点⇄各市町村）を輸送する小型トラックに荷物を積替える中継拠点を、現状の1箇所から3箇所に増設。

【期間】 令和5年7月3日(月)～令和6年3月29日(金)の平日

【場所】 ニセコ除雪ステーション、尻別除雪ステーション

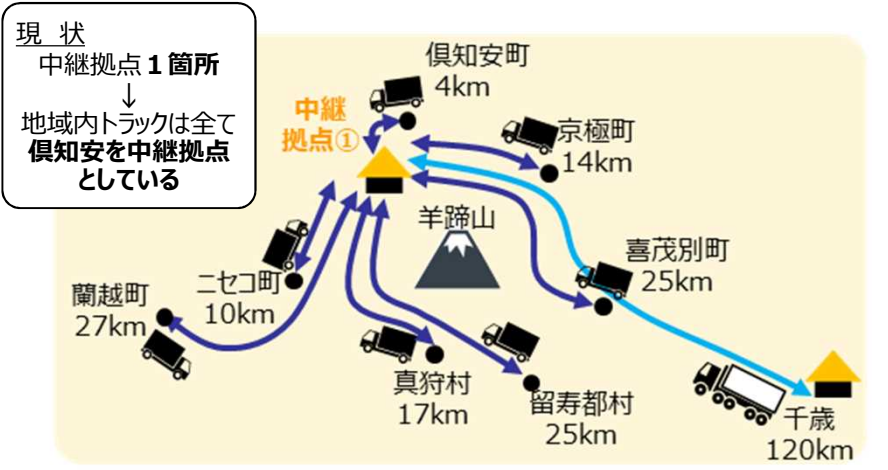
【効果検証】

除雪ステーションの活用による、ドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化等を把握

＜後志地域の物流中継地点＞



実証実験のイメージ

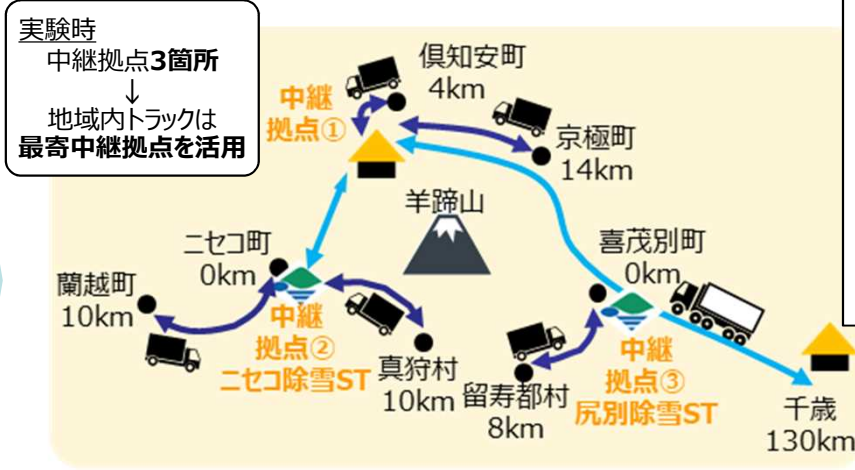


現状
中継拠点1箇所
↓
地域内トラックは全て倶知安を中継拠点としている

○配送距離概算

現状（片道）	
都市間トレーラー	約120km
地域内トラック	約122km
合計	約242km

効率化



実験時
中継拠点3箇所
↓
地域内トラックは最寄中継拠点を活用

実験時（片道）想定	
都市間トレーラー	約130km
地域内トラック	約46km
合計	約176km

凡例

- 千歳 都市間トレーラー 移動経路・距離 (千歳→中継拠点)
- 〇〇町・村 地域内トラック 移動経路・距離 (各町村→中継拠点)
- ▲ 従来の拠点 (倶知安および千歳)
- 中継拠点 (除雪ST (ニセコおよび尻別))

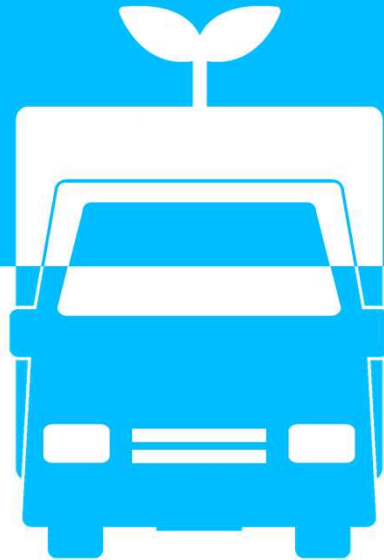
本実証実験は「北海道開発局とヤマト運輸株式会社との北海道の生産空間の維持発展に資する連携協定」に基づき実施。

〔参考〕

ロジスク

がスタートします！

共同輸送・中継輸送実装研究会
北海道開発局



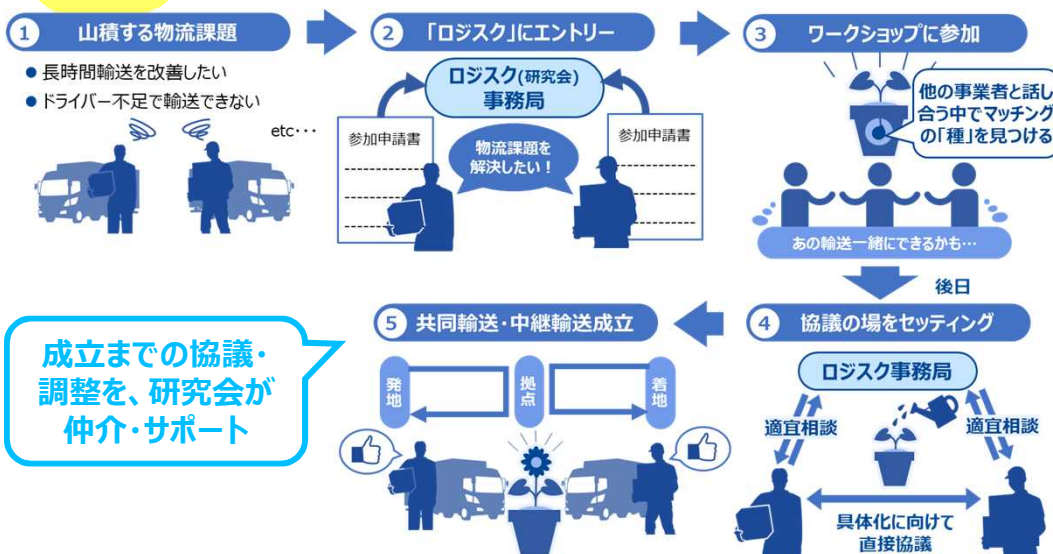
「2024年問題」にお困りではないですか？

- 2024年4月から、トラックドライバーの労働時間が制限されることを受けて、2023年7月、道内の物流事業者や学識者、行政等による「**共同輸送・中継輸送実装研究会**」が発足しました。
- 研究会では、共同輸送・中継輸送の実現に向けて、ワークショップによる物流事業者間のマッチングモデル「**ロジスク**」(ロジスティクス+スクラム) をスタートさせました。

「ロジスク」が他社様とのマッチングをお手伝いします

- 「ロジスク」は、物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が**少人数のワークショップ**で話し合える場を提供します。
- 従来の車両マッチングアプリ等とは異なり、マッチング成立→共同輸送・中継輸送の実現まで、行政を含む**研究会がサポート**することで、継続性・信頼性の高い協力体制づくりを目指します。

「ロジスク」の参加イメージ



「ロジスク」にご参加ください！

- ロジスクは多くの事業者の皆様の参加をお待ちしています。
- お問い合わせ、参加のご希望は、下記までご連絡ください。

北海道開発局 開発監理部 開発調整課
 TEL : 011-709-2311 (内線5477)
 E-mail : hkd-ky-seisankuukan@gxb.mlit.go.jp



すくすく、ロジスク